

「神宿る島」を崇拜する 文化的伝統の物証

九州本土から約60km離れた沖ノ島は、古代から現在に至るまで「神宿る島」として崇拜されてきました。島内には他に例を見ない古代祭祀遺跡が残され、東アジアの諸国間の活発な交流に伴って四世紀後半から九世紀末まで続いた、航海安全に関わる祭祀のあり方を物語ります。



- A 宗像大社沖津宮 (沖ノ島、小屋島、御門柱、天狗岩)
- B 宗像大社沖津宮遙拝所
- C 宗像大社中津宮
- D 宗像大社辺津宮
- E 新原・奴山古墳群

「神宿る島」 世界遺産 宗像・沖ノ島と関連遺産群



国際連合教育科学文化機関

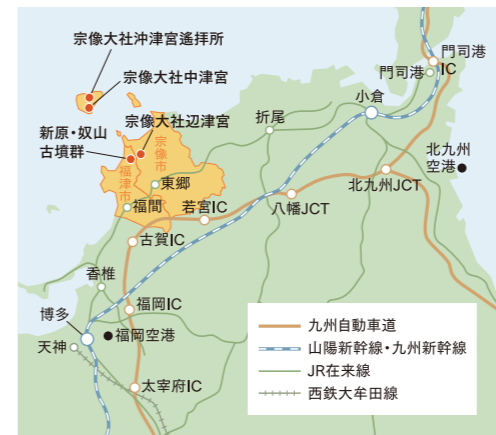
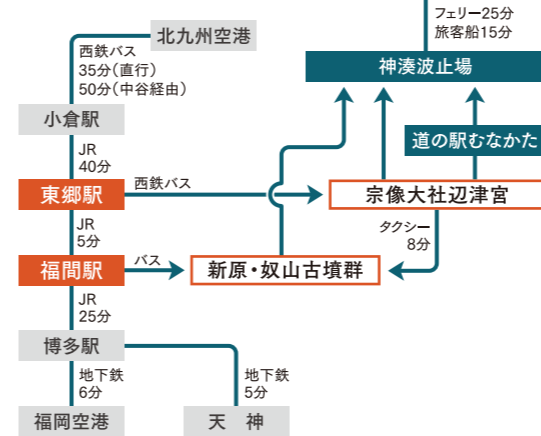


「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群
世界遺産登録年:2017年

遺産群への来訪

宗像・福津エリアへ

2020年10月現在



※沖ノ島へは渡航できません。

スマホガイド「みちびき沖ノ島」

遺産群の見どころや行き方を分かりやすく解説するサイトです(アプリダウンロード不要)。モデルルートに沿った解説の提供や、オススメの周遊プラン検索などが可能です。



スマートフォン用アプリ「みちびき沖ノ島」

- 1 沖ノ島を眺める:「いま」沖ノ島が見えるか確認できる!
- 2 沖ノ島を探す:ARリーダー(カメラ)で沖ノ島を発見、共有!
- 3 古墳群を歩く:新原・奴山古墳群の復元CGをARで!



観光情報・お問い合わせ先

○宗像観光協会
むなかた観光ガイド www.muna-tabi.jp
TEL 0940-62-3811 / FAX 0940-62-3821
(宗像大社辺津宮および大島のガイドはこちら)

○ふくつ観光協会 fukutsukankou.com
TEL 0940-42-9988 / FAX 0940-42-9989
(新原・奴山古墳群のガイドはこちら)

発行・お問い合わせ



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会 www.okinoshima-heritage.jp
事務局:福岡県九州国立博物館・世界遺産室
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 TEL 092-643-3162 FAX 092-643-3163
E-mail: sekaisan@pref.fukuoka.lg.jp

「守り伝える活動団体」募集

本遺産群の価値を将来に守り伝えていくため、世界遺産を守り伝える活動(海岸清掃など)にご協力いただける企業や団体をご案内いたします。まずはお気軽にご相談ください。



イラスト/北野陽子
2022年3月発行



沖津宮遙拝所からみた沖ノ島

禁忌などにより容易に近づけない水平線上の沖ノ島を遥拝するための場が設けられた。



みあれ祭

毎年10月1日、漁民たちにより大島から海上神幸が行われ、三女神は本土の辺津宮に集結する。



むなかたたいしや おきつみや
宗像大社沖津宮
(沖ノ島、小屋島、御門柱、天狗岩)

祭神 田心姫神
たごりめのかみ

なかつみや
宗像大社中津宮
祭神 湊津姫神
たぎつひめのかみ

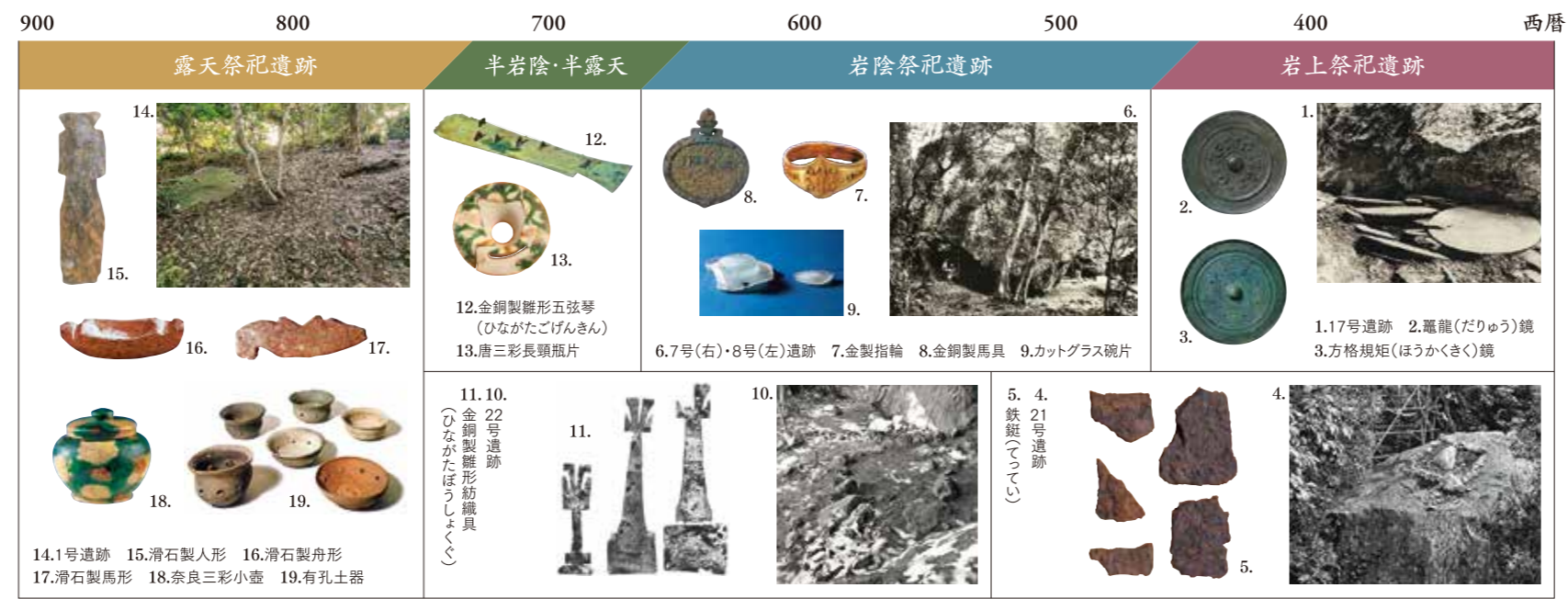
宗像大社
おきつみやほいし
沖津宮遙拝所

しんぼる ぬやま
新原・奴山古墳群

へつみや
宗像大社辺津宮
祭神 市杵島姫神
いちきしまりめのかみ

三女神信仰としての継承

沖ノ島で祭祀を行った古代の豪族宗像氏は、沖ノ島に宿る神への信仰から、宗像三女神への信仰を育みました。沖ノ島は、大島および九州本土でも三女神をまつる宗像大社の一部として、島にまつる禁忌や遥拝の伝統とともに、今日まで神聖な存在として継承されてきました。



沖ノ島祭祀遺跡の変遷

宗像大社沖津宮

(沖ノ島、小屋島、御門柱、天狗岩)

— 古代祭祀と対外交流 —

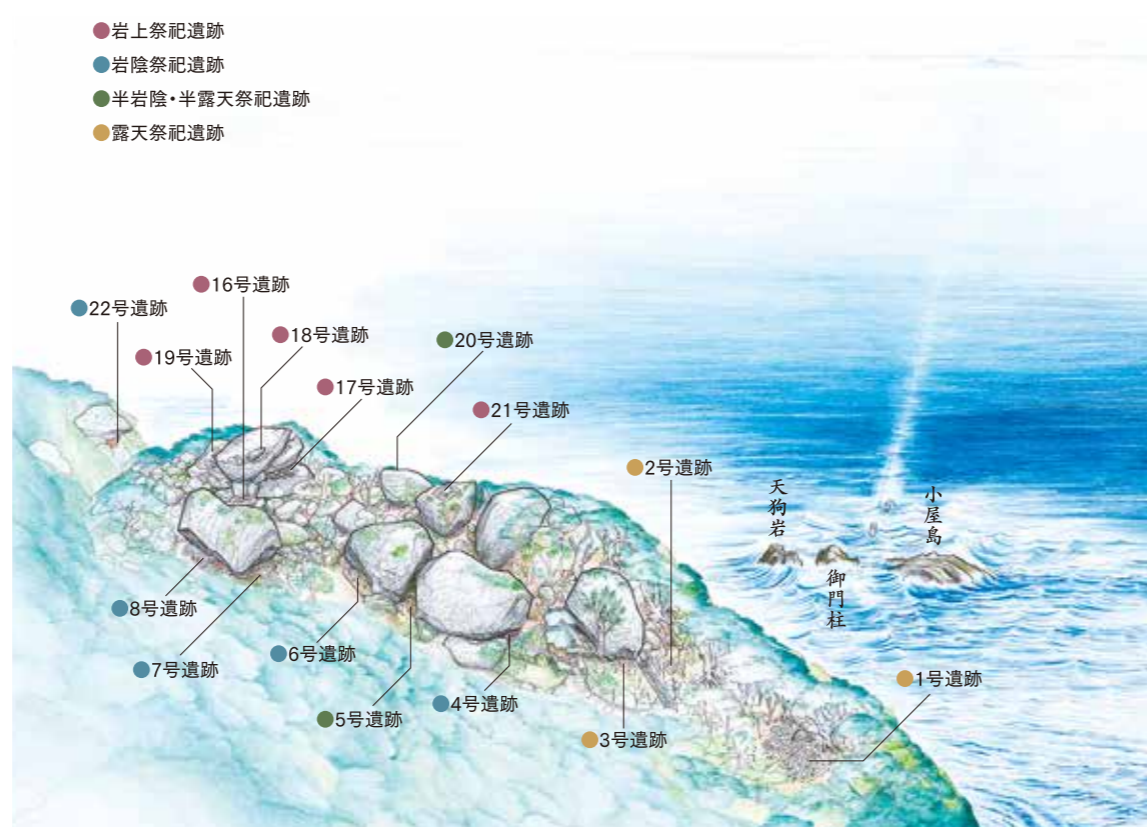


沖ノ島と宗像三女神信仰

日本列島から朝鮮半島へ至る海域の守り神とされ、国家的な祭祀が行われてきた沖ノ島ですが、7世紀後半頃には、共通した祭祀が大島や九州本土でも行われます。大島の御嶽山山頂や本土の辺津宮境内の丘陵上(下高宮)からは、沖ノ島でも用いられている特徴的な祭祀遺物が発見されています。このことは、8世紀初めに完成した日本最古の歴史書である『古事記』や『日本書紀』に、宗像氏が三か所で三女神をまつているとあることに符合し、宗像三女神をまつる宗像大社の三宮の起源を示すものです。

神名の「タゴリ(タキリ)」は霧に「タギツ」は潮流が速く渦巻く様子に、「イチキ(イツキ)シマ」は神をまつる島、もしくは神がいる島に由来し、三女神の起源が沖ノ島で航海の安全を願った信仰であることを物語っています。

そして三女神への信仰は、社殿のある三宮において行われる神事とともに、宗像地域の人々によって守られてきたのです。



沖ノ島の禁忌(一部)

一、島で見聞きしたことを口外してはならない。(おひやさま)

一、(木)一草一石たりとも島から持ち出してはならない。

一、入島する際は全裸になり海中で穢れをばらう「穢」をしなければならぬ。

調査によって発見された奉獻品約8万点は、一括で国宝に指定されています。朝鮮半島や中国大陸、さらにはペルシア(イラン)など、海外からもたらされた品々も数多くあります。



本遺産群の価値

評価基準(ii)

「建築や科学技術などの発展に重要な影響を与えたある期間にわたる価値観の交流またはある文化圏内での価値観の交流を示すもの」

航海安全のための祭祀で捧げられた、多様な来歴をもつ豊富な出土品によって、「神宿る島」沖ノ島は、四世紀から九世紀の間の東アジアにおける諸国家間の重要な交流を示しています。用いられた品々の配置や祭場の構成などによる祭祀の変遷は、中国大陸、朝鮮半島、日本列島を拠点とした国々がアイデンティティの感覚を醸成させた時期に起こり、日本の文化の形成に本質的に貢献した、活発な交流の性質を反映するものです。

評価基準(iii)

「ある文化的伝統または文明の存在を伝承する無二もしくは希有の物証」

「神宿る島」沖ノ島は、古代から現在まで発展し、継承されてきた「神宿る島」を崇拝する文化的伝統の類い希な例です。

沖ノ島に保存されてきた考古学的な遺跡はほぼ手つかずで、そこで行われた祭祀が約五百年の間にどのように変遷したかの記録を提供します。沖ノ島に対する崇拝は、大島や九州本土からの「遥拝」の伝統とともに、沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、九州本土の辺津宮という宗像大社の三つの信仰の場での、宗像三女神への信仰という形で受け継がれてきました。



古墳群築造時のイメージ

展示・解説施設

**福津市複合文化センター
カメラアステージ歴史資料館**

新原・奴山古墳群をはじめ、古代宗像氏に関わる福津市内の古墳出土品の展示があります。

開館／10:00～20:00
休館／火曜(祝日の場合は翌平日)
および毎月最終水曜

福津市津屋崎1-7-2
TEL 0940-72-1207



台地の中心部に築造された前方後円墳は、ヤマト王権とのつながりの強い有力者の墓であることを示しています。王権のもとで朝鮮半島への航海や沖ノ島での祭祀を担うことにより勢力を伸ばした、古代豪族宗像氏の性格をよく表す古墳群です。

E 新原・奴山古墳群

沖ノ島祭祀を担い、沖ノ島に宿る神に対する信仰を宗像三女神信仰へと発展させた古代豪族、宗像氏の墳墓群です。五世紀から六世紀にかけて当時の入海に面した台地上に築かれた、前方後円墳五基、円墳三五基、方墳一基の計四一基が現存しています。長期にわたる様々な規模や形態の古墳が集中して築かれていることが特徴です。台地上からは旧入海の田園とその向こうの玄界灘が見渡せ、海を意識して築かれたと考えられます(左図)。



高宮祭場

展示・解説施設

宗像大社神宝館

沖ノ島で発見された国宝の奉獻品約8万点のほか、古文書など宗像大社の歴史を伝える文化財を展示しています。

開館／9:00～16:30
休館／なし

宗像市田島2331(辺津宮境内)
TEL 0940-62-1311



れています。現在の本殿は最後の大宮司となった宗像氏貞によって、拝殿は当時筑前を領した小早川隆景によって、16世紀末に再建されたもので、ともに国の重要文化財です。下高宮祭祀遺跡の一部は高宮祭場として整備され、社殿を用いない神事が行われています(左図)。

D 宗像大社 辺津宮

宗像大社辺津宮は、九州本土に所在する宗像三女神信仰の拠点で、市杵島姫神を主神としてまつています。釣川沿いの旧入海に突き出た丘陵上の下高宮祭祀遺跡を起源として、その麓に社殿が造営されていきました。宗像氏の子孫で、対外交易によって栄えた宗像大宮司家が信仰を司った中世の辺津宮境内には、三女神をそれぞれまつる第一宮(現在の本殿)・第二宮・第三宮をはじめとした社殿群が建ち並び、主要な構成要素は現在に引き継が



『筑前国続風土記附録』大島図(部分)
(1797年。平岡家所蔵)

宗像大社中津宮は、沖ノ島をはじめ宗像三女神への信仰が篤い大島の人々の信仰の中心で、湍津姫神をまつています。御嶽山山頂の御嶽山祭祀遺跡を起源とし、麓の海に面した高台に本殿が造営されています。16世紀の文献からは、山頂の御嶽神社(上宮)と麓の中津宮本殿(本社)が並立する現在のような状況を確認でき、江戸時代の絵図には山頂と麓とを結ぶ参道が描かれていま

す(左図)。山頂と参道、麓の本殿周辺が一体的に中津宮の境内を構成します。現在の本殿は、17世紀頃に再建されたものです(県指定有形文化財)。御嶽山山頂からは、沖ノ島のほか壱岐、対馬など玄界灘を一望でき、南側にも北九州市域から福岡市域までの九州本土が望めます。大島が海上交通の上で重要な位置にあったことを実感できます。

C 宗像大社 中津宮



沖津宮遙拝所と沖ノ島(昭和30年代)

展示・解説施設

大島交流館

中津宮と沖津宮遙拝所を中心に、沖ノ島との関わり深い大島の歴史と文化を展示・解説する施設です。

開館／10:00～16:00
休館／月曜(祝日の場合は翌平日)

宗像市大島901-4
TEL 0940-72-2797



以前から大島の漁師の妻は、ここから沖ノ島で漁をする夫の無事を願って祈りを捧げていたようです。現在も、毎年春・秋の沖津宮大祭はここで行われ、通常は閉められている社殿の扉と窓を開いて、神事を行います。

B 宗像大社 沖津宮遙拝所

沖ノ島から約48キロメートル離れた大島の北端に設けられた、沖ノ島を遙か遠くから拝む(遙拝)ための場です。社殿は沖ノ島の方角を向き、沖ノ島をご神体とする拝殿の役割をもっています。少なくとも18世紀初めまでには現在の地に遙拝所が設けられました。空気の澄んだ日には、ここからはっきりと沖ノ島の姿が見えます(左図)。沖ノ島は容易に近づぐことのできない島であったため、江戸時代には通常はここで沖津宮の神事が執り行われていました。

アクセス

「東郷駅前」から西鉄バスで約10分、「宗像大社前」下車すぐ。

おすすめルート

散策コース(全長 約1.3km)
所要時間 約30分(徒歩)

D 宗像大社 辺津宮

拝殿・本殿～高宮祭場
徒歩 約10分

アクセス

1 「福岡駅前」から西鉄バスで25分、「奴山口」下車、徒歩15分(24号填付近)に到着。

2 「宗像大社辺津宮」からタクシーで約8分。

カメラステージから新原・奴山古墳群へ
1. 「東町」より西鉄バスで「奴山口」下車
2. 「カメラステージ」から「ふくつミニバス」(日祝連休)で22分、「昭和学園前」下車すぐ。

カメラステージへ
1. 「福岡駅前」より西鉄バスで約10分(「福津市文化会館前」下車)。
2. 「JR福岡駅みやじ口」より「ふくつミニバス津屋崎線」で26分。

散策コース(全長 約2km)
所要時間 約40分(徒歩)

E 新原・奴山古墳群

展示・解説施設

世界遺産ガイダンス施設 海の道むなかた館

18m×7mの大型スクリーンや3Dシアターなどで沖ノ島を体感しながら、遺産群全体の価値が学べる宗像市の施設です。

開館/9:00～18:00
休館/月曜(祝日の場合は翌平日)
宗像市深田588
TEL 0940-62-2600

旧入海
拡大マップ
沖ノ島眺望スポット
古墳

B 沖津宮 遙拝所

C 宗像大社 中津宮

大島

宗像大社 沖津宮遙拝所
宗像大社 中津宮

便	神湊発	大島発
1	7:40	6:50
2	9:25	8:35
3	11:15	10:15
4	13:50	13:00
5	15:30	14:40
6	17:10	16:20
7	19:00	18:00

中津宮本殿～御嶽山山頂(標高224m)
徒歩 約20分

見学・散策にあたっては…

- 1 祭祀遺跡や古墳の墳丘上への立ち入りはご遠慮ください。
- 2 散策コースの中には個人の宅地のそばを通る場所がありますので、迷惑にならないよう、無断で私有地内に入ったり、ゴミを散らかしたりしないでください。
- 3 車道や道幅の狭い場所、登山道など危険な箇所もありますので、十分注意してください。

散策コース(全長 約7km) / 所要時間 約2時間30分(徒歩)
路線バスルート 大島観光バス「グランシマール」(渡船ターミナル～砲台跡間、1日7便)